

戦争法案強行採決後、最初の大型選挙 宮城県議選（10月25日）

*自民 1減 県議会で単独過半数に達せず

*共産 4増 議席倍増 県議会で第2党に躍進、

*公明 現状維持、*民主 2減、*社民 2減、*（旧みんな→）維新 1減

自民に逆風 1人1,000票減 参院選懸念 罵声も浴びる

「逆風を肌で感じた」 仙台市泉区市名坂の事務所で26日未明、泉選挙区で初当選した自民新人は疲れ切った表情を見せ、「数人に1人の割合で『自民支持を辞める』と言われた。『恥を知れ』と罵声も浴びた」と話した。

今回、公認34人を擁立した自民は無投票を含め27人が当選し、4年前より議席を1減らした。最大勢力を維持できたが、支持の陰りも浮き彫りとなった。

無投票を除く自民公認26人の1人当たりの平均得票数は8,459。前回は9,469で、その差は1,000票以上に上る。

公明党も議席は4で変わらないが、1人当たりの得票数は1万1,397から約630少ない1万762に減った。

共産追い風 議席倍増「期待の表れ」 「仙台市議選以上」

「新しい政治の扉をたたくことができた」 26日正午、当選した共産公認の8人が仙台市中心部で街頭演説会を開き、安倍政権打倒を強調した。

共産は議席が4から8に倍増。1人当たりの得票数は8,601に達し、前回から約1,700伸ばした。中島康博県委員長は「仙台市議選を越える反応の良さだった。国民連合政府への期待の表れだ」と言い切る。

共産は来夏の参院選で安保法制廃止の1点で野党が結集、共闘する戦略を描く。

風に乗れず民主2減 （野党）共闘に不安も

「民主は世論の風に大きく帆を張れず、獲得議席を前回の7から5に減らした。

県連幹部は「安保法は党内に意見の相違があり、共産ほど分かりやすく訴えられなかった」と反省した。参院選に向けては「安倍政権打倒を旗印に野党は共闘するべきだ」と強調する。

共産躍進は野党共闘の行方にもどう影響するか。「共産と一緒にやりすぎると元からの支持者が引く」。仙台市内の民主現職は共産主導の共闘に不安を漏らす。（「河北新報」15年10月27日付け）

原発指定廃棄物の最終処分場の建設問題に揺れる加美選挙区（定数1）では、建設反対の候補者（無所属）が、女川原発から30km圏内の遠田選挙区（定数1）では、原発再稼働に反対する候補者（無所属）が、それぞれ当選しました。

【宮城県議選 党派別当選者数】（前回→今回）

自民 28↘27	共産 4↗8	民主 7↘5	公明 4→4
社民 3↘1	旧みんな→維新2↘1	元気会 0→0	無所属 11↗13

【(右から) 宮城県議選・女川町議選・女川町長選の公営掲示板 (女川町)】



【街頭演説会 (石巻市)】

